

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

## 母への思い

千代野小学校六年

田中たなか

心唯みゆ

六月二十二日、いつものように遊んで家に帰るとテレビを見ながら泣いている母の姿がありました。おたがいに声を交わすことはなかったけど、すぐに何があったのかわかりました。元ニュースキヤスターの小林麻央さんがなくなつたのです。

この日から少しづつ母について考えさせられるようになりました。

私は三年生のころから陸上を習っています。走ることが大好きです。楽しいです。タイムがちぢむともっと楽しいです。そしてうれしいです。こんな気持ちにさせてくれたのは、母のおかげだと思います。仕事から帰ってきて、休むヒマもなくすぐ夜ご飯を作り、子どもだけ先に食べさせてくれて、その後また休むヒマもなく練習場まで送ってくれます。そして何より、毎回ずつと最初から最後まで見ていてくれるので安心できます。見ているといつても、他のお母さん達とはちがいで、ずつと座って話しているのではなく、ビデオをとったり、100mを測ると聞くとストンプウオッチを持つてゴールまで走つていつて測つてくれたりします。そして、休けいの時には、今とつてくれたばかりのビデオを見てアドバイスをしてくれたりします。しかし、練習がきついときもあります。ウォーミングアップにミニハードル、120mを二、三本走り、スタート練習は数えきれないくらい走ります。それに、六年生からは、種目をハードルに変えたのでさらに大変になりました。それで、だんだんつかれてきて、少し手抜きをすることがあります。そうすると、すぐに見やぶられて、ものすごくおこられます。

「何を目標に練習しとるの？心唯がそんな気持ちなら、ママだつてこれからそんな感じでいいね!!」と言われたことがあります。その時私も、「アドバイスばかり言わんと、ちよつとはほめて!!自分でできんくせに。」と言ひ返しました。すると母は、「わかつたよ。」とだけ言ひました。その声がなんだかさみしそうな、くやしそうな感じに思えました。私もなんだか心苦しくなつてきて、「ゴメンネ」と心の中であやまりました。先日、この四年間の集大成とも言える全国大会をかけた大事な県大会がありました。この日も母は、太陽がのぼる前から、色々と準備したり栄養バランスを考えたご飯を作つてくれたりしていました。競技場に着いたら、私がきんちようしているのが分かつたのか、今までの練習の時

の母とはちがつて、ハンドスピナーをしたり、陸上と関係のない話をしたり、私をリラックサさせようとしてくれていました。予選が始まる時も、笑顔で送り出してくれました。おかげで予選をとつぱして決勝に進出することができました。次の決勝までの空いた時間も、ストレッチをしたり、時間を計算しながら飲み物や食べ物をくれたりしました。いよいよ決勝のしよう集時間になつたとき、今度は頭をポンポンとなでられて送り出してくれました。結果は、二位。0.2秒差で負けてしまい、全国大会に行けませんでした。くやしい気持ちと今まで私のために自分のことをすべて後回しにしてきた母への申し訳ない気持ちだが、こみ上げてきました。みんなの前ではなみだをぐつとこらえましたが、荷物置場に行くと母がなみだ目でひきつた笑顔でむかえてくれ

「よーがんばつたね。」

とまた頭をポンポンとなでてくれました。

なみだがつーと流れおちました。

ワーンと大声を上げて泣きたかつたけど、母が「顔を上げ!!胸をはれ!!石川県で二位なんやよ!!どうどうとしていいんやよ!!」

と言つてくれました。母にそう言われて、少しだけホツとして力が体からぬけました。この日から数日間私は燃えつきたような感じになりました。したくない、何をしたらいいのかわからない状態になつてしまいました。そんな私を心配して、母はそーつとコーチと連絡を取つていてくれて、次の目標を見つけていてくれました。

母には色々な顔があります。笑っている顔、泣いている顔、おこっている顔、仕事の顔、休みの顔、ね顔：これら一つ一つが母であり、これ全部で母なんだと思います。どんな時でも子を全力で守つてくれ、支えてくれる母は私のあこがれです。なかなかいつもの日常の中で感謝の言葉は言つてあげられないけれど、今の私ができることは、次の大会でくやしなみだではなくうれしなみだを流してあげられるようにがんばつて、母の首に金メダルをかけてあげたいです。そして、いつまでも心と心がつながつた親子でいたいと思います。